

シュリンキングシティ日米研究交流セミナー名古屋 2018 の主催組織について

名城大学都市情報学部 海道清信

「シュリンキングシティ日米研究交流セミナー名古屋 2018」の運営組織「シュリンキングシティ研究会」は、科研費 B「シュリンキングシティにおける空間変化と計画的対応策の日米欧比較研究と提案」(平成 27~30 年度)の代表者と分担者で構成されています。

シュリンキングシティ(縮小都市)に関する日米欧研究交流は、2014 年 7 月の横浜国立大学におけるワークショップから始まりました。平成 27 年度に、科研費基盤 B「シュリンキングシティにおける空間変化と計画的対応策の日米欧比較研究と提案」に採択され、本格的な研究と研究交流を進めてきました。

ドイツ・ライプツヒ市(2016 年 3 月、Helmholtz Centre for Environmental Research - UFZ にて)、ドイツ・エアフルト市 (2017 年 3 月、Erfurt University of Applied Sciences にて) で、日米欧などの研究者が集まり、研究会や現地調査を開催した。日本側研究者は、横浜ワークショップ以降、毎年 3, 4 回、東京、金沢、神山町などで、研究会を開催してきました。

この間、日米欧の研究メンバーによって、ヨーロッパの専門雑誌「Cities Vol.69」(2017 年 3 月、Elsevier 社)に、シュリンキングシティのディスコース分析に関わる 5 本の論文(日本、ドイツ、アメリカと総括論文 2 本)を、特集として掲載することができました。さらに、服部圭郎『ドイツ・縮小時代の都市デザイン』(2016 年 3 月、学芸出版社)、海道清信・藤井康幸・ドイツ研究メンバーなど共著『都市縮小時代の土地利用計画ー多様な都市空間創出へ向けた課題と対応策』(2017 年 7 月、学芸出版社)ほか学術論文を発表してきました。

本年度は、第 18 回 IPHS、国際都市計画史協会の 2018 横浜、2018 年 7 月で、メンバーによるラウンドテーブル *Shrinking Planning in the Historical Planning Context* を主催しました。

今回招請するアメリカの研究者は、研究会メンバーがこれまで交流してきた研究者です。

科研費基盤研究(B)「シュリンキングシティにおける空間変化と計画的対応策の日米欧比較研究と提案」(平成 27～30 年度)。

研究代表者

名城大学都市情報学部 教授

カイドウ キヨノブ

海道 清信

名古屋市東区矢田南 4-102-9

(TEL052-832-1151(大学代表) 052-768-6229 研究室直通)

kaidou@meijo-u.ac.jp

研究分担者

吉田 友彦 立命館大学政策科学部 教授

松行 美帆子 横浜国立大学大学院イノベーション学府 准教授

服部 圭郎 龍谷大学政策学部 教授

藤井 康幸 静岡文化芸術大学文化政策学部 教授

以上